

第3回コンパクトなまちづくり大賞 個別事業部門 都市みらい推進機構理事長賞

地区名：小松中央地区 受賞者：小松市（石川県）

受賞理由：小松中央地区は市の中心市街地に位置し「まちの顔」であったが、人口や商店数の減少により賑わいが失われつつあった。北陸新幹線整備に伴う連続立体交差事業を契機として、駅東西の土地区画整理事業を進め、併せて都市再生整備計画事業による駅前広場、観光交流センターの整備、都市機能立地支援事業により小松駅南ブロックに商業・子育て・大学・宿泊機能を有する複合施設を民間活力の活用で整備するなど、複数の事業の組合せによる取組と、これを契機にNPO法人やボランティア団体の活動も活発となり賑わいが戻りつつある点が評価されました。

1. 地区の概要と課題

本市は石川県の南西部に位置し、北西に日本海、東に霊峰・白山を望み、豊かな自然に恵まれています。また、空港（小松空港）・鉄道（JR小松駅）・高速道路の整備により優れたアクセス力を備え、これまで産業都市として発展し南加賀地域の中核を担っています。

小松中央地区は、かつては小松城の城下町として賑わい、以来まちの中心として栄えてきた本市の中心市街地にあり、歴史的にも市民の意識の中でも「まちの顔」となっていますが、近年では人口や商店数の減少により、賑わいが失われつつある状況でした。

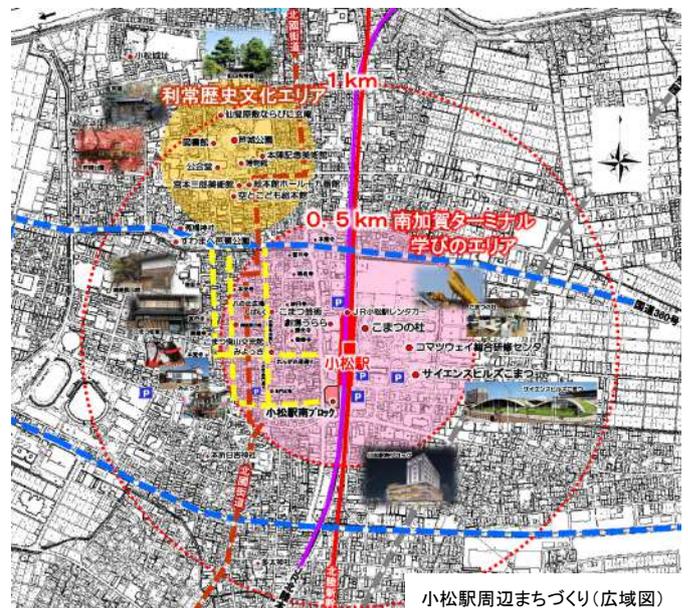
そこで、当地区では活気のある都心核形成を推進するため、小松駅周辺部の「近代的区域」と中心市街地の「伝統的區域」の相互連携を進めるとともに、商業機能のみならず居住機能や行政・医療・福祉・教育などの多様な都市機能の集積を図り、便利でコンパクトな日常生活圏の形成を目指しています。また、市民が主体となった都市の再構築により中心市街地の拠点性を高め、賑わい創出や活力増進の実現を図ることとしています。



2. 取組概要

まちづくりの取組として、JR北陸本線の連続立体交差事業、小松駅東西の土地区画整理事業、都市計画道路の整備が始まり、これにより地区の様相が一変しました。この後、駅東地区については「学びのエリア」として位置づけ、これまでに科学やものづくりに直接触れることができる「サイエンスヒルズこまつ」や「こまつの杜わくわくコマツ館」が完成しました。一方、駅西地区については数多く残る歴史的地域資源を活用するため「歴史文化エリア」として位置づけ、曳山子供歌舞伎をはじめとする町人文化の情報を発信する「こまつ曳山交流館みよさ」が完成しました。駅南ブロックにおいては、駅東・駅西地区の施設との連携を図り、旧商業施設跡地にて民間活力を活用し、商業施設（ブックカフェ・子育て支援施設・宿泊施設）及び教育文化施設（大学）を有し集客の核となる複合拠点施設「こまつアズスクエア」を整備しました。

また、現在も小松駅東西広場や観光交流センターをはじめとする駅周辺施設の整備や、北國街道を中心として歴史資産である町家の活用や無電柱化による道路修景整備などにより、人々が集い賑わう魅力的なまちの整備を進めています。



小松駅周辺まちづくり(広域図)

3. 発現した成果

まちなかの環境整備の進捗に合わせ、小松うどんなど新たに「食」を取り入れた試みや、町家保全に関する活動、チャレンジショップ、イベント開催など、中心市街地の活性化や賑わい創出に向けた市民活動が活発になりました。また、こまつアズスクエアでの大学開学を契機として、大学と地域との密接な連携により人材育成・イノベーション創出・産業発展・医療向上・国際化など地域振興と社会の健全な発展に資する「地域連携事業」や、生涯学習環境の充実により世代・立場・組織を超えて地域で活躍する人材育成拠点（学びの場）となる「こまつ市民大学」が開始され、多くの市民の交流に寄与しています。



小松駅周辺整備イメージ

4. 今後の展開

北陸新幹線小松駅開業を控え、観光客を含めた小松駅の利用者数の増加が見込まれることから、今後はバス交通など公共交通の利便性向上により、小松駅を交通結節点として市内各地への交通ネットワークの強化を図ります。

当地区では誘導施設を含めた都市機能のさらなる充実や景観整備を進めるとともに、歩行者の回遊性を向上させ、地区内の文化施設や歴史的地域資源の有効活用を促し、まちなかにおける交流人口の増加を図ります。また、中心市街地の人口維持に際し地域交流の担い手となる居住者を増やし地域コミュニティの活性化を図るため、町家再生や土地共同化などにより定住を促進し、市街地の核としてのコンパクトな土地利用を推進することとしています。



イベント開催



無電柱化によるまちなみ整備